

## 「絵本とわらべうたの会」2023年度⑦

日時 11月7日(火) 10:00~11:00  
場所 大富士交流センター 2階 和室  
定員 12組程度  
申込み 10/17(火)~

就園前の子どもとお母さんを対象にわらべうたで楽しいひとときを過ごします。

事前に参加申し込みが必要ですが、当日来ていただいても定員に余裕がある場合はご参加いただけます。

## 市民読書サポーターのいる日程 10月

市立中央図書館 (10:00~12:00)	7日(土)	14日(土)
	21日(土)	28日(土)
西公民館	3日(火)	10:30~11:30

## 「ぼくがみつけたんだよ！」図書館サポーター児童コーナーにて

中央図書館児童コーナーのソファの上に、『ピーターラビットのおはなし』のシリーズの本を何冊も積み上げ、熱心に読んでいた男の子に声をかけました。小学校1年生だという男の子は「ピーターラビットの本があったんだよ。ぼくがみつけたんだよ！」とうれしそうに、そして得意げに言いました。キャラクターとして知っていたピーターラビットに本があったんだという驚きと自分が図書館で見つけたんだという気持ちがこちらにも伝わってきました。それで図書館に来るたびに、こうして積み上げて読んでいくのです。しかし、様子をうかがっていると、読んでいた本はシリーズ中の『モペットちゃんのおはなし』という子猫のおはなしだけでした。見開きの絵についている文章が3~4行程の、1年生でも読めそうな字数のおはなしです。その本を繰り返し繰り返し読んでいます。



ピーターラビットのおはなしシリーズは、内容的には1年生が自分で読むのは難しいものもありますが、読んでもらえば十分楽しめるものです。「しっぽをとられたリスのおはなしを、読んでみる？」と『りすのナトキンのおはなし』を読んであげました。「りすのしっぽの船がおもしろいね」と言って聞いていた男の子は、「今日はこれも借りていこう」と言って、いつもの子猫のおはなしと2冊を持って帰って行きました。

(市民読書サポーター 若林清美)

## 本の紹介

### くまのパティントン

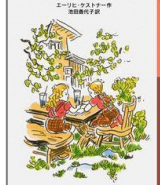


### くまのパティントン

マイケル・ボンド 作  
松岡享子 訳  
福音館書店

ロンドンに住むブラウンさん夫妻は、パティントン駅でへんてこな帽子をかぶったクマを見つける。クマは古ぼけた大きなスーツケースの上に座り、「どうぞこのクマのめんどろをみてやってください。おたのみします」と書いた札を首からぶら下げていた。夫妻はクマを家に連れて帰り、パティントンと名前をつけた。好奇心旺盛で何でも鼻を突っ込みたがるパティントンの周りでは、さまざまな事件が巻き起こる。挿し絵はパティントンの表情が豊かに表現されていて楽しめる。続編がある。

### ふたりのロッテ



### ふたりのロッテ

エーリヒ・ケストナー 作  
池田香代子 訳  
岩波少年文庫

山の中の湖のほとりに少女たちが休暇を過ごす子どもの家があった。ウィーンから来た活発なルーゼと、ミュンヘンから来たおとなしいロッテがそこで出会う。会ったとたんにお互い顔を見合わせてびっくり。ふたりはそっくりで、話をしているうち、実は双子で両親の離婚でルーゼはお父さんと、ロッテはお母さんと暮らして、別々に育ったことが分かる。ふたりは、両親を和解させようと、入れ替わってそれぞれの家に帰る。性格も食べ物の好みも違うふたりの、スリルある入れ替わり作戦は、まわりの大人の気持ちを動かしていく。